

もも管理特報 No. 7

令和4年8月22日
みな穂もも振興会
みな穂農業協同組合
富山県新川農林振興センター

1 「あかつき」の収穫期、果実品質

- ・ 収穫始期：7月24日頃、収穫盛期8月2日頃。
- ・ 大きさ：7月中旬の降雨で肥大が回復し、平年並み。
- ・ 糖度：7月中旬の降雨で収穫始めの糖度は低かったが、盛期は平年に比べ高かった。
- ・ 硬度：7月中旬の降雨で収穫始めは平年より軟らかかったが盛期は平年並みだった。
- ・ 生理障害：核割れ果の発生が平年に比べ多かった。

2 病害虫防除

<発生状況>

- ・ せん孔細菌病：7月中旬の降雨で増加、全体として中発生。
- ・ 灰星病、ホモプシス腐敗病：罹病果実の発生は、少なく平年並み。
- ・ ハダニ類：7月下旬～8月上旬の高温乾燥で急増、一部園地で多発生。

<防除のポイント>

- ・ ムッシュボルドーDFの散布は、せん孔細菌病の越冬細菌量を少なくする上で重要な防除なので必ず実施する。
- ・ 台風の接近等により雨を伴った強風が予想される場合、必ず事前にムッシュボルドーDFを散布する。
- ・ ハダニ類の発生が見られる場合、早めに、スターマイトフロアブル（2,000倍、収穫前日まで、1回）を単用散布する。

(1) 薬剤防除

回数	散布時期	対象病害虫	薬剤名と希釈倍率		100 [㎡] 当たり薬剤量	散布量(^{kg} /10a)	防除実施日(自己記入)
14	9月上旬頃	せん孔細菌病 薬害軽減	ムッシュボルドーDF クレフノン	500倍 100倍	200g 1,000g	400	
15	9月中下旬頃 (前回防除の2週間後)	せん孔細菌病 薬害軽減	ムッシュボルドーDF クレフノン	500倍 100倍	200g 1,000g	400	
16	10月上旬頃 (前回防除の2週間後)	せん孔細菌病 薬害軽減	ムッシュボルドーDF クレフノン	500倍 100倍	200g 1,000g	400	

- ・ 農薬散布時は、近隣に告知するとともに、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意してください。
- ・ また、使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用してください

3 今後の管理

(1) 秋季剪定

① 時期：

- ・ 9月中旬頃までに実施する。

※せん孔細菌病の発生が多い園では、秋季剪定をムッシュボルドーDF 散布前に実施し、防除効果を高める。

② 剪定量

- ・ 過度な剪定は樹勢の低下を招くため、剪定量は最大でも年間剪定の30%までとする。

③ 剪定の対象となる枝

- ・ 樹形を乱す強勢な枝、樹冠内部に光や薬剤の到達を妨げる枝を切除する。

④ 結果枝確保対策

- ・ 切除の際は、翌年以降の結果枝確保のため、基部付近の芽や副梢を残す。

⑤ 病虫害対策

- ・ カイガラムシ類や縮葉病の常発園では、秋季剪定時に大枝（主枝や亜主枝）単位で剪定を行い、薬剤のかからない部分をなくす。
- ・ 大きな切り口には、トップジンMペースト等の保護殺菌剤を必ず塗布する。

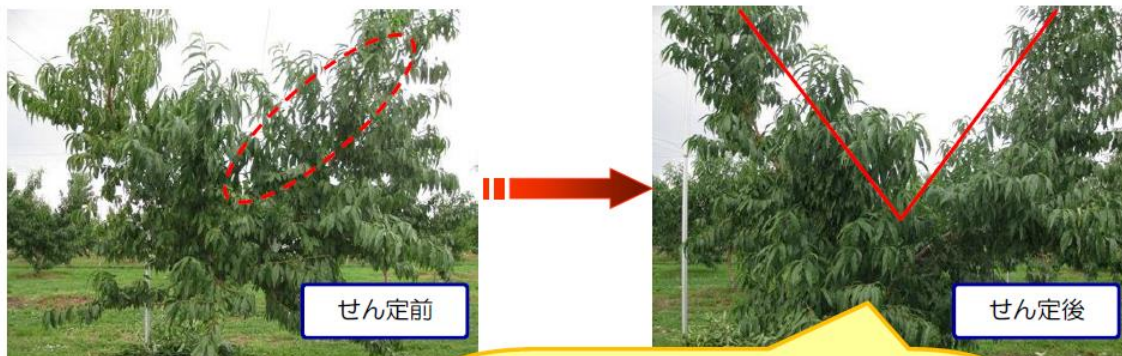
⑥ 若木の剪定

- ・ 長大な枝や、直上枝、地際から発生した枝等を切除し、樹形確立や翌年の花芽形成を促す。

⑦ 樹勢の弱い樹やせん孔細菌病等で葉数が少ない樹の剪定

- ・ 過度な剪定は控え、葉数を確保し樹勢の維持に努める。

樹形を乱す強勢な枝を中心に切除し、同時に樹冠内部に光が到達しやすくなるよう直上した枝も切除する。



○側面の様子

- ・ せん定後、側面からの外見がV字になるようにします。

(2) 施肥

- ・ 礼肥、基肥ともに、樹齢や樹勢、本年の結実状況等により調節する。
- ・ 苦土石灰は基肥施用の14日以上前に散布する（基肥の肥効低下防止）。

【施用量の目安】

目的	施用時期	肥料名	樹齢等	施用量 10a当たり	成分量kg/10a		
					N	P	K
礼肥	収穫終了後 (9月上旬頃まで)	硫安	成木(6年生~)	20kg	4.2		
			若木(3~5年生)	10kg	2.1		
			幼木(1~2年生)	-	-		
土壌改良	10月~ 11月	苦土石灰	共通	100kg			
		堆肥		2,000kg			
基肥		BM有機 果樹専用	成木(6年生~)	120kg	9.6	8.4	8.4
			若木(3~5年生)	60kg	4.8	4.2	4.2
			幼木(1~2年生)	40kg	3.2	2.8	2.8

○8月下旬~11月 ももの作業チェック表

作業内容	作業のポイント	実施適期	実施予定日 (自己記入)	実施日 (自己記入)
防除	<p><灰星病対策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 樹上に残った灰星病の罹病果は、越冬し翌年の感染源となるので枝ごと切除し、園地外で処分する。 <p><せん孔細菌病対策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ムッシュボルドーDFの散布は、2週間間隔を目安に必ず実施する。 	2 病害虫防除参照		
秋季剪定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若木、樹勢の強い樹を中心に実施する。 ・ 樹勢に合わせた剪定を行う（過度な秋季剪定は樹勢を低下させる）。特にせん孔細菌病等で葉の少ない樹は徒長枝の切除等、最低限の実施にとどめ、葉数確保に努める。 	3 今後の管理(1) 秋季剪定参照		
施肥	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹齢、樹勢に合わせた施肥を実施する。 	3 今後の管理(2) 施肥参照		

<問い合わせ先>

JAみな穂 館田 83-3212